

(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～研修の機会は「地域づくり」と同じ、連続性を大切に～

令和4年9月28日と10月11日に、生活支援コーディネーター基礎セミナーを行いました。今年度の基礎セミナーは、生活支援コーディネーターネットワーク企画会議の委員のみなさまとともに企画し、運営にも携わっていただきました。生活支援COの方は参集で開催し、さらに、コロナ禍の中で参集が限られていましたが、オンラインという新たな発信方法で、連携が必要とされる各市町の高齢以外の分野の方々にもはじめてお声かけさせていただきました。

制度を超えて「めざす地域づくり」を学ぶ(研修1日目:午前) 「生活支援CO基礎セミナー」+「地域づくりを学ぶセミナー」

生活支援CO基礎セミナー
(参加者41名)

ディスカッション

オンライン:行政(高齢・子育て・障害・生活困窮等)
地域包括・社協管理者等(参加者24名)

1年未満のCO
が60%か!

地域づくり
りって?

住民主体
って?



◎県社協 福本 ○なごみ 田村氏 ●香美町 森田氏

テーマ:「めざす地域づくり」とは
登壇者:ONPO法人 なごみ 田村 幸大氏
●香美町社会福祉協議会 森田 洋子氏
進行:◎兵庫県社会福祉協議会 福本 良忠

市役所

重層的支援体制整備を
しないとイケない...

地域活動の経験
がない...

今年度から子ども
も担当になった

ディスカッションで示されたもの

なぜ地域づくりなのか(県社協 福本)

◎地域では、さまざまな環境が変わり、年齢関係なく孤独や閉塞感を感じている住民が増えてきた。「住民主体」という行政、専門機関と住民には乖離がある。大切なのは、住民の声を聴き、出来ているところを見つけて意味づける。このような関わりで住民は知り、学び、気づきやる気(主体性)を高めることができる。

社会的孤立について

- ◎地域では、年齢関係なく孤立している。来られない方のために訪問の活動を活かしている。
- 地域の関係性が近いがゆえに認知症や男性など、居場所などに参加できないことがある。家でできることでも参加を促している。

住民主体について

- ◎お試しキャンペーンを行い、負担感を軽くしている。地域で考えることが習慣や文化になってきた。
- 動きにくくなった方の玄関先に近所の人々が毎日集まったり、スノーボードのベンチをつくる等、自主的に行われることが増えてきた。

地域とは(なごみ:田村氏)

◎地域とは人。地域づくりは小さな変化を積み重ねていく。たくさんの活動は住民に支えられてできている。

地域とは(香美町 森田氏)

- 地域は生き物。人と地域は似ている。何年たっても不安。分かることが増えても分からないことが増えてくる。だからこそ学び合うことが大事。

【発行元】(令和4年11月9日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当:小山・永坂)

地域づくりを学ぶセミナー参加者の声

- ・仲間づくり・繋がりづくりが地域づくりだと気づいた。
- ・「住民主体」ではなく、「住民の主体性を高める」ように考える。
- ・住民のつぶやきを拾い、それをどのように形にしていけるかが大事

いかにして「知る」か、「伝える」か 基礎セミナー1日目:午後

ステップ1

○相手を丁寧に知る



カチカチ 緊張!

自己紹介の工夫：仕事だけでなく、おたがいのことをさらに知る質問を繰り返す

ステップ2

○伝えるための知恵と力あわせ



発見!

アイテム：どこにもある新聞紙・段ボール等があった!



サポーター：行き詰ったときさりげない助言をくれる人がいた

ステップ3

○協働作業を見える化



貼り付ける

ホワイトボードに書いて踊る



似顔絵を書く

段ボールの太鼓で歌う



POINT

地域に生かそう



講師(なごみ 田村氏)からの種明かし

今回は、自己紹介を工夫した。いつもの肩書の紹介だけでは、相手を深く知ることができない。あえて仕事に関係ない質問によりお互いを知り、関係性ができやすくなる。また、知りえたことを伝える方法も、模造紙とマジック等だけでなく、県社協が準備していた段ボールや新聞紙など、どこにでもあるものを見つけたことで、発想が広がる。このようなさりげない準備や行き詰ったときにサポートするのがコーディネーターの役割。こうしていろいろな人の知恵と力を合わせて作業をすることで自然に協働作業になる。これは、地域でのとりくみでも同じことがいえる。

さらに「対話」で深まる基礎セミナー2日目

ステップ4

○「もやもや」を出す

地域で代表になる人がいない。

住民がお客さんになってしまう。主体的って?

社協との連携ができない



仲良くなるには会話。お互いを理解するのは対話

自分のできないことを示す

地域をよくしたい目的のため、いろんな人と対話しながら探っていく

地域で主体的に課題解決は難しい。ビジョン型はこうなりたい。実はねと課題が出てなぜだろう、どうしようとなる。

成果より関係性とプロセス



はなのいえ：内海氏 岩城氏・坂本氏



他のネットワーク委員

始めないと始まらない。地域によって正解はちがう。自分たちのできる範囲から始める

地域の困りごとを聞いたら知っている人につなぐ。そのために、自分のネットワークを広げていく。一生懸命してもだめならできる人のところに行く。

講師：兵庫県立大学 竹端 寛氏

講師(兵庫県立大学 竹端氏)からの種明かし

今回は、手引きの「地域の理解：準備期」、「ネットワーク・組織化：協働期」の学びをめざした。私は地域を知らない、だから、講義ではなく、地域をよく知る先人たちとの対話で進めていった。これは、COと住民の関係と同じである。弱さやできないことをどうしたらできるだろうかと一緒に考える。地域づくりに「正解」はないが「成解」がうまれる。今日の学びや理解したことで自分を変える。明日できることから頑張ってみよう。

【編集後記】「今頃、基礎セミナー？」という時期になってしまいました。しかし、今年度は、今までの生活支援COのさまざまな課題を解決すべく、ネットワーク委員のみなさまと2年間かけて協議してきたことを形にしていく協働作業を行っています。研修企画も、研修運営も、地域づくりに通じる。「対話」と「協働」と「ネットワーク」の大切さを実感しています。

《お知らせ》

- 「生活支援CO実践セミナー」開催
11月29日(火) 10:30~16:30
- 「えんがわナビ」
11月24日(木) 15:00~17:00